

## 「お仏壇でのお経の唱え方 その3」



令和3年7月



両讚寺  
恵心寺

発行 〒610-0343  
京都府京田辺市  
大住八河原九  
宿谷真治  
電話 0774-62-3137

コロナ禍でどうしても家にいる時間が増えてしまいました。

せつかく家にいるのですから、家のお仏壇でお経を唱えてみるのはいかがでしょうか。

五月より「お仏壇でのお経の唱え方」を解説しております（あくまで両讚寺・恵心寺の宗派である浄土宗のお話になります。他宗はこの限りではないことご注意ください）。

先月は、お仏壇のある部屋はどういった空間なのかということをお伝えしました。

一言でいうとお仏壇の部屋は「道場」です。

ですので、お仏壇の前に座るといことは、修行をする道場の場に入っているということになります。

修行道場の中にある以上、その場は一般的な俗世間とは全く違う世界です。

例えば私達は日常、自分の意志に関わらず、さまざまな情報に触れてしまいます。

自分に取って不快な情報に触れてしまうと、どうしても「怒り」や「妬み」、「貪り」という心が起こります。

しかし、一礼して道場に入ると、その場は一般的な俗世間とは違う世界です。お仏壇の前は「誠実」「敬意」「正しい道」という世界になるのです。

そのことを認識する為には、ある一つの行動を行う必要があります。

それは「お線香」です。浄土宗のお経の本を開いてみても、先ず始めに出てくるお

経は「香燭（こうげ）」という燭文です。

それだけでも、「お香」は、最初に行うべき作法であるというのがおわかりいただけると思います。

まず、お仏壇に座ってローソクや灯りを付けます。

そして線香に火を着けます。お線香に着火する火は、出来ればお仏壇のローソクの火が良いかと思えます。

仏様を照らすローソクの火は、闇（煩惱）を照らす智慧の灯りです。

お線香に着いた火を消すと、線香の煙が立ちます。

お線香の火を消す際は、フツと息を吹きかけて消してはいけません。

息は一度吸って吐いたものですので、やはり、手か、うちわなどでおおいで消すのが良いかと思えます。

ある古文書には「香を先に聞くべからず」とあります。

仏様より先にお線香の香りを嗅いではいけません。

なぜかと言うと、先に香りを楽しんでしまうと、自分にお供えたことになってしまいます。

これは非常に重要で、本来お香は誰のためにするのか？と考えると理解できません。

お香は、「仏様やご先祖様」の為に供えするという行為です。

それが、フレグランスやロマなどとは決定的に違うところなんです。

つまり、お線香を焚くという行為は「相手の為」にする行為でないと全く意味がないのです。

お香について、次回の寺報でさらに詳しくお伝え致します。

先ずは一度、お香を焚いてお供えしてみましよう。